

5. 妊娠中毒症と血液希釈ならびに濃縮

貝原 学 (東京大学医学部
分院産婦人科)

目 的

妊娠中毒症の発生要因あるいは重症化の要因として従来より種々の説が挙げられているが、現在なお不明な点が多い。それらの要因の一つとして貧血が従来より重要視されているが、一方では逆に、血液の濃縮化も妊娠中毒症と密接に関係し、血液の濃縮が著しいほど妊娠中毒症は重症であると報告されている。

このように一方では貧血が、他方ではそれとは逆に血液の濃縮が妊娠中毒症と密接な関係があるという相反する現象が報告されているわけであるが、これはどのように解釈すればよいのであろうか。本研究は妊娠中毒症と血液の希釈、貧血あるいは血液の濃縮との間にはたして密接な関係があるか否かを疫学的に再検討し、関係があるとすれば、妊娠中毒症の症状や重症度とどのような関係にあるかを検索し、妊娠中毒症の新しい診断基準や治療指針の設定に寄与する知見を得ることを目的に行われた。

対象ならびに方法

対象は1981年10月~1983年12月までの期間に、当科で奇形を有さない単胎児を妊娠36週以降に分娩した妊婦620例である。妊娠36週に座位における妊婦の肘静脈より血液を採取し、EDTAで凝固を防止した。Coulter S Counterを用いて、ヘマトクリット(Ht)、ヘモグロビン濃度(Hb)および平均赤血球容積(MCV)などを測定した。なお、糖尿病、腎疾患、本態性高血圧および鉄欠乏性貧血以外の貧血性疾患などが合併した妊婦は対象から除外した。

妊娠中毒症の軽症と重症の分類は、日産婦学会・妊娠中毒症委員会によって提案された重症度判定基準案(1983年)にしたがった。

推計学的検定は、カイ2乗法、一元分散分析法およびStudent t-testを用いて行った。

成績ならびに考案

1. 重症妊娠中毒症は血液濃縮をきたした妊婦(妊娠36週のHt値が38%以上)に有意に高率に発生することが確認された。

2. 軽症妊娠中毒症は鉄欠乏性貧血をきたしている妊婦に高率に発生することが確認された。

従来より貧血は妊娠中毒症の一発生要因といわれているが、これは軽症妊娠中毒症についてのみいえることであり、重症妊娠中毒症にはあてはまらない。

3. 浮腫、蛋白尿および収縮期血圧異常などの発生頻度は、Ht値別にわけた妊婦群間で有意差は認められない。一方、拡張期血圧は、Ht値が高い妊婦群ほど有意に高値を示している。

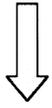
即ち、妊娠中毒症の症状のうち、Ht値と密接な関係にあるのは拡張期血圧であることが判明した。

4. 新生児の出産体重は、正常妊娠の場合には妊婦のHt値と密接な関係があり、児体重はHt値(妊娠36週における)が高いものほど有意に小さくなる。しかし、妊娠中毒症では、Ht値と児体重との間には正常妊娠にみられるごとき関係は観察されない。このことは妊娠中毒症では二次的に発生する胎盤機能障害が児の発育により大きな影響を及ぼすため、Ht値の影響がmaskされてしまうことを意味している。

重症妊娠中毒症でHt値が38%以上を示す場合には児の発育は著しく障害される。

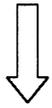
以上のごとく、妊婦を管理していく上で、Ht値の測定は極めて重要である。妊娠36週において、Ht値が38%以上を示す場合には重症妊娠中毒症の発生率が高く、その場合には児の発育が著しく障害されるので厳重な管理が必要である。

さらに従来より妊娠中毒症妊婦に対して頻用されていた利尿剤は、血液の濃縮を助長させる可能性があるため、Ht値の測定を頻般に行いながら使用することが必要不可欠である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

妊娠中毒症の発生要因あるいは重症化の要因として従来より種々の説が挙げられているが、現在なお不明な点が多い。それらの要因の一つとして貧血が従来より重要視されているが、一方では逆に、血液の濃縮化も妊娠中毒症と密接に関係し、血液の濃縮が著しいほど妊娠中毒症は重症であると報告されている。

このように一方では貧血が、他方ではそれとは逆に血液の濃縮が妊娠中毒症と密接な関係があるという相反する現象が報告されているわけであるが、これはどのように解釈すればよいのであろうか。本研究は妊娠中毒症と血液の希釈、貧血あるいは血液の濃縮との間にはたして密接な関係があるか否かを疫学的に再検討し、関係があるとすれば、妊娠中毒症の症状や重症度とどのような関係にあるかを検索し、妊娠中毒症の新しい診断基準や治療指針の設定に寄与する知見を得ることを目的に行われた。